認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成26年5月 米子市(鳥取県)

全体総括

〇計画期間;平成20年11月~平成26年3月(5年5月)

1. 計画期間終了後の市街地の状況(概況)

基本計画に基づき、『人が集まり、歩いて楽しめ、元気に暮らせる中心市街地』を目指して、3つの目標に向かって、各事業に取り組んできた。

その結果、「人が集い賑わうまちをつくる」では、"にぎわいトライアングルゾーン"内において、空き店舗を活用した6つの拠点施設がオープンするとともに、商店街の一部では、アーケードを撤去し、下水道整備やコミュニティ道路としての整備が完了するなど、以前よりも若い世代のまち歩きが目立つようになった。また、これまでになかったアニメやマンガといったポップカルチャーやコンテンツビジネスの拠点施設が整備され、商品の販売だけではなくコンテンツの製作現場を見ることができ、まちなかの新たな魅力の一つとなっている。

さらに、米子の玄関口であるJR米子駅のバリアフリー化がなされたことにより、来街者の利便性の 向上に繋がっている。このほか、基本計画に掲げる事業の推進を契機に、民間による賑わい創出のイベ ント等が発展的・継続的に実施されるようになってきた。

このように、"にぎわいトライアングルゾーン"内では、来街者が回遊できる環境が整い、商店街全体のつながりを感じられるようになった。さらに、公会堂の改修に併せ今まで閉鎖的であった前庭を公園のように自由に活用できるようにするとともに、図書館の改修においても市民展示ギャラリーコーナーを整備するなど、新たな交流人口増加の可能性が期待できるようになった。

しかし、移動手段を自動車に頼る傾向が強く、まちなかを多くの人が徒歩で回遊するには至らなかった

「歴史や文化、自然に触れ合えるまちをつくる」では、旧加茂川・寺町周辺地区街なみ環境整備事業によるまちかど広場の整備や下町の建築物の修景、下町観光ガイドの新たなコースの追加、下町や米子城跡を含む周辺の文化的・歴史的資源を巡るモニターツアーやブロガーによる中心市街地の情報発信に取り組んできたが、史跡米子城跡整備事業の着手が遅れているなどにより、十分な効果を発現するまでには至っていない。

「住みたくなるまちをつくる」では、民間マンション建設、介護サービス付共同住宅、高齢者専用賃貸住宅の建設、生活支援サービスの実施など、住みやすい環境づくりを進めてきたが、中心市街地の人口は、社会増の兆しがあるものの自然減がそれを上回ったための減少を続け、歯止めをかけるまでには至らなかった。

中心市街地の変化については以上のような状況であるが、全体的には、この5年5ヶ月の取り組みにより、活性化の効果が着実に出始めている。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

(①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- (②)若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

計画に掲げた 86 事業のうち 37 事業が完了、44 事業が実施中、5 事業が事業化に至らず、事業進捗率は、94%であり、概ね順調に進捗・完了している。

商店街において、空き店舗を活用したテナントミックスやアーケードを撤去し、通りをコミュニティ 道路として整備するほか、6 つの拠点施設がオープンし、JR米子駅のバリアフリー化推進事業も完了 した。また、図書館・美術館整備事業や公会堂改修事業が完了するなど、都市機能の整備も充実してき た。

本市の中心市街地活性化基本計画は、即効性のある大きな事業に依存せず、小さな事業を連鎖的に実施することにより活性化を目指すものであるが、計画に掲げた成果指標について、数値的な成果を出すまでには至らなかった。しかし、計画に掲げる取り組み以外に、賑わい創出のための様々な取り組みが始動してきたこと、地区内での人口の社会増減を見ると増加の兆しがでてきたこと、市民アンケートでも、中心市街地を訪れる10代、20代、40代の来街頻度が増加していることなど、成果が現れてきている。

3. 活性化が図られた(図られなかった)要因(米子市としての見解)

目標値としての活性化は達成できなかったが、米子市中心市街地活性化基本計画の策定段階から、行政と中心市街地活性化協議会や民間事業者が連携をしながら取り組んできた。

にぎわいトライアングルゾーン内では、特に四日市町大型店舗活用事業や三連蔵ショップ&ギャラリー事業、地域情報拠点施設運営事業が、民間の活発な動きの先駆けとなり、その後、笑い庵進化再生事業、法勝寺町商業環境整備事業、元町空き店舗活用事業、アルファビル再活用事業、元町通り商業環境整備事業、笑い通り商業環境整備事業といった新しい拠点が次々と生まれた。このスピード感のある民間事業者の動きにより、中心市街地活性化に対する機運が高まり、計画に掲げる事業以外にも若手事業者や市民有志の積極的な取り組みが始動してきたことなどが要因と考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- (②)若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

米子市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体及び市民と連携・調整を取りながら中心市街地活性化の推進を行い、予定した事業は概ね実施されたと考える。

7つある中心市街地商店街のうち、6 商店街エリアで商店街組合やそれら関係者を主体とした事業実施組織が組成され、活性化事業を実施された。

平成 21 年度に複合商業施設の設置が 3 事業とアーケード撤去を伴う商業環境整備が 1 事業、平成 22 年度は複合商業施設の設置が 1 事業と路面整備を伴う商業環境整備が 1 事業、平成 23 年度は複合商業施設の設置が 1 事業とアーケード撤去を伴う商業環境整備が 1 事業、平成 24 年度は複合商業施設の設置が 1 事業と路面整備等を伴う商業環境整備が 1 事業、平成 25 年度はアーケード撤去を伴う商業環境整備の 1 事業がそれぞれ実施された。

また、平成23年度と平成25年度には商店街エリア内で、サービス付高齢者向け住宅が1棟ずつオープンした。

このような中心市街地活性化の取り組みにより、中心市街地は徐々に賑わいを取り戻し、市民がその成果を享受できるようになりつつある。

しかしながら、事業実施の3商店街の歩行者通行量は平成22年度をピークに減少に転じ、中心市街地内の7商店街の営業店舗数も平成23年度をピークに減少に転じた。若年層の創業や就業者が増加したと成果もあるが、近年の経済情勢等により実施まで至らなかった事業もあり、目標数値は達成していない。

今後はこれまでの成果を活かしながら課題に取り組み、市民の理解と参加により官民が連携し中心市街 地の活性化に取り組んでいく。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- (②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

市民の意識の変化や評価については、基本計画策定時(H20年度)と取り組みの成果が現れ始める平成23年度以降毎年実施している「中心市街地活性化に関する市民アンケート」と総合計画の策定や進行管理のために実施している「まちづくりに関する市民アンケート」調査を基に考察する。

・中心市街地に関する市民アンケート

調査期間:平成25年8月1日~平成25年8月16日

調査方法:市民3400人を無作為に抽出しアンケートを郵送

有効サンプル数:1,228人(回答率36.1%)

■ 中心市街地に出かける頻度

週に1回以上出かける割合を比較すると平成25年度は20年度と比べ僅かであるが増加している。



◇中心市街地活性化に関する市民アンケート結果より◇

■ 中心市街地への居住意向

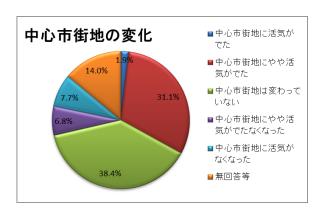
中心市街地への居住意向について、平成 20 年度と平成 25 年度を比較すると、「住んでみたいと思う」と回答した人は、ほとんど変わっていない。また、「住んでみたいと思わない」と回答した人は、わずかに増加している。



◇中心市街地活性化に関する市民アンケート結果より◇

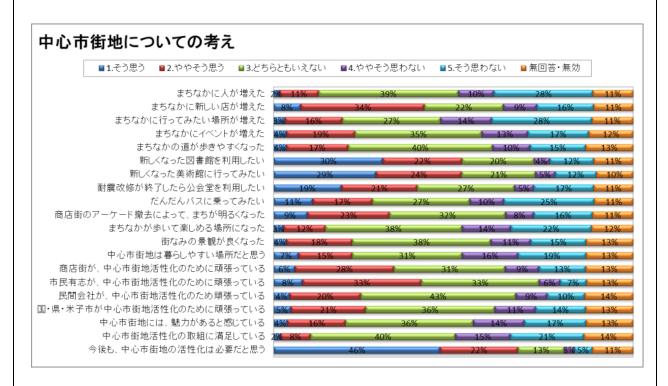
■ 中心市街地の変化

基本計画策定当時と比べ、中心市街地の変化についての質問では、「活気がでた」、又は「やや活気がでた」と感じている人が33%、「活気がなくなった」、「やや活気がなくなった」が14.5%となっており、目標数値に現れない部分で、活性化の効果が現れている。



◇中心市街地活性化に関する市民アンケート結果より◇

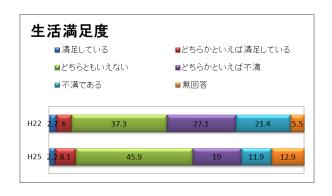
また、「中心市街地についてどう考えているか」(複数回答)の質問について、「まちなかに新しい店が増えた」、「新しくなった図書館、美術館、公会堂を利用してみたい」、「まちが明るくなった」、「中心市街地活性化のために商店街、市民有志、民間事業者そして行政が頑張っている」と言った部分では「そう思う」、「ややそう思う」と回答した割合が高くなっているが、「まちなかに人が増えた」、「行ってみたい場所やイベントが増えた」、「まちなかが歩いて楽しめる場所になった」、「中心市街地活性化の取り組みに満足している」と言った部分では、「そう思わない」、「ややそう思わない」と回答した割合が高くなっている。しかし、約7割弱の人が「中心市街地の活性化は必要」と感じている。



◇まちづくりに関する市民アンケート結果より◇

■ 中心市街地活性化の取り組み

中心市街地活性化の取り組みについては、満足傾向は多少増加し、不満傾向の割合は減少している。



◇まちづくりに関する市民アンケート結果より◇

6. 今後の取組

1 期基本計画では、南北軸、東西軸が交わるエリアをにぎわいゾーンとして位置付け、にぎわいゾーン内において公会堂、図書館・美術館の拡充整備や商業拠点施設整備を集中的に行うことにより、それぞれの拠点を線でつなぐことかでき、同ゾーン内ではにぎわいの復活の兆しが現れ、様々な交流の可能性も出てきている。

市民アンケートからも、7割弱の人が中心市街地の活性化は必要と感じているように、取り組みを継続していく必要がある。

今後は、1 期計画でやり残した山陰歴史館整備に取り組むとともに、本市のランドマークとも言える 米子城跡についても施設整備に向けた取り組みをスタートさせる。これにより、公会堂 ~ 図書館・美 術館・山陰歴史館 ~ 米子城跡を結ぶ軸(文化軸)と、1 期計画で取り組んだ「にぎわいゾーン」内 における拠点施設整備と連携させ、文化と商業が融合する「文化・交流軸」を形成することにより、達 成できなかった目標1「人が集いにぎわうまち」、目標2「歴史や文化、自然に触れ合えるまちをつくる」 を達成することを目指す。また、目標3「住みたくなるまち」については、近年、中心市街地の大型商 業ビルの空きスペースなどに、事務系の企業の進出が出始めてきている。先ずは市内において雇用が確 保されることが重要であり、引き続き企業誘致の取り組みに努めるとともに、中心市街地においては住 宅の確保や暮らしの利便性の向上など、更なる取り組みを目指す。

(参考)

各目標の達成状況

□ 1 m	D +## +12+##	甘淮居	口無法	最新	折値	本中心河
目標	目標指標	基準値	目標値	(数値)	(年月)	達成状況
人が集い賑わうまちを	歩行者通行量(自	20,282	21,319	10.744	H25.11	0
つくる	転車を含む)	(H19.11)	(H25.11)	18,744	П20.11	С
	下町観光ガイドの	1,380	2,070	1 100	1105	0
歴史や文化、自然に触	利用者数	(H19)	(H25)	1,180	H25	С
れ合えるまちをつくる	湊山公園の入場者	1,373	1,510	1 000	LIGE	
	数	(H20.6)	(H25)	1,202	H25.6	<u>C</u>
住みたくなるまちをつく	民众人口	12,059	12,159	11.060	1105.4	0
る	居住人口	(H19.4.)	(H25.4)	11,069	H25.4	С

注)達成状況欄 (注:小文字のa、b、cは下線を引いて下さい)

- A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)
- <u>a</u> (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)
- B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)

<u>b</u> (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ば	ず。)
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)	
<u>c</u> (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)	

目標「人が集い賑わうまちをつくる」

「歩行者通行量(自転車を含む)」※目標設定の考え方基本計画 P57 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H19	20,282
	(基準年値)
H20	24,299
H21	23,275
H22	21,520
H23	18,311
H24	19,175
H25	18,744
H25	21,319
п2Э	(目標)

※調査方法;11 月の平日、休日の 2 日間実施。調査地点 19 地点において、調査時間を 10 時~16 時 30 分

までとし、毎時30分間計測。平日、休日の2日間の合計を把握。

※調査月 ; 11 月※調査主体 ; 米子市

※調査対象:自転車を含む中学生以上の歩行者

【総括】

平成 25 年度の歩行者通行量は 18,744 人で、基準日の平成 19 年度の 20,282 人と比べて、1,538 人減少し増加には至らなかった。

特に、商店街周辺では、「法勝寺町商業環境整備事業」「元町通商業環境整備事業」といったアーケード撤去及び路面等の整備が行われたが、整備後において大きく空き店舗が改善するまでには至らなかった。

しかしながら、空き店舗を活用した「四日市町大型店舗活用事業」、コミュニティFM局の開設やイベントスペースを併設した「地域情報発信拠点施設運営事業」により、若年層の来街者が増加してきており、一部で若い経営者の空き店舗への出店にもつながってきている。

また、新しい文化としてポップカルチャーの拠点施設が整備され、中心市街地の魅力の1つとなるとともに、毎年空き店舗を利用して、アニメ、映画などのポップカルチャーを切り口としたイベントが実施されるようになるなど、新たな交流人口の増加が期待できるようになった。

さらに、商店街に近接するエリアでは、行政による図書館・美術館の拡充整備が完了し、平成26年3月には公会堂の改修事業が完了するなど、集客機能が充実してきており、今後は、ソフト・ハード事業をいかに連携させ、一体的な魅力を創出していくことが必要である。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①. 四日市町大型店舗再活用事業 (株)SKY)

支援措置名及び	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業補助金
支援期間	平成 21 年度
事業開始·完了時	平成 21 年度【済】
期	
事業概要	空き店舗となっている旧書店ビルを商業活性化の拠点として再生し、新しい商業者
	の集積と新たな客層を呼び込むための施設整備を行う事業
	【1階】1店舗、【2階】2店舗、【3階】2店舗、事務所、【4階】多目的スペースを設置

目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量:952人	
	(最新値)歩行者通行量:1,298人	
達成状況	達成	
達成した(出来な	若年層の客層を呼び込むことができ、にぎわいの拠点として、定着してきているた	
かった)理由	め	
計画終了後の状	四日市町エリアでの核となる施設として、周辺店舗との連携が活発となり、イベント	
況 (事業効果)	の開催により賑わいが創り出された。	
四日市町大型店	実施済み	
舗再活用事業の		
今後について		

②. 三連蔵ショップ&ギャラリー事業 (㈱法勝寺)

支援措置名及び	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業補助金
支援期間	平成 21 年度
事業開始・完了時	平成 21 年度【済】
期	
事業概要	よりみち通り沿いの築 120 年の蔵を改修し、飲食、物販ギャラリー等を設置するテ
	ナントミックス事業
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量:226人
	(最新値)歩行者通行量:57人
達成状況	未達成
達成した(出来な	ギャラリー事業の中止等により来店者が当初の見込みより減少したため
かった)理由	
計画終了後の状	建物の外観や内部の雰囲気、こだわりの飲食店等が人気を呼び、集客力の高い
況 (事業効果)	店舗となっている。
三連蔵ショップ	実施済み
&ギャラリー事	
業の今後につい	
て	

③. 法勝寺町商業環境整備事業(㈱法勝寺)

支援措置名及び	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業補助金
支援期間	平成 22 年度
事業開始・完了時	平成 22 年度【済】
期	
事業概要	老朽化したアーケードを撤去し、下水道整備を行い、花や緑の演出、石像、ベン
	チ、フットライト、街路灯などを備えるコミュニティ道路として整備
	(L=130m)
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量: 786 人
	(最新値)歩行者通行量:412人
達成状況	未達成
達成した(出来な	一定の効果は出ているが、事業終了後において新規の出店数が少なく、目標値に
かった)理由	は届かなかった。
計画終了後の状	空き店舗の活用、新規出店等の動きが出てきている。また、隣接する元町商店街と
況 (事業効果)	連携し、イベント等の集客面等で活性化に寄与する活動に結びついている。
法勝寺町商業環	実施済み
境整備事業の今	

後について

④. 鳥取環境大学西部サテライトキャンパス連携活用事業(鳥取環境大学、米子市、中心市街地活性化協議会)

X /	
支援措置名及び	
支援期間	
事業開始・完了時	平成 23 年度~【実施中】
期	
事業概要	にぎわいトライアングルゾーン内に鳥取環境大学のサテライトキャンパスを設置し、
	周辺施設との連携により、中心市街地の賑わいを創出する事業
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量:-
	(最新値)歩行者通行量:2人
達成状況	_
達成した(出来な	
かった)理由	
計画終了後の状	サテライトキャンパスが開設され、同施設内での公開講座の開催以外にも周辺施
況 (事業効果)	設を利用した講座や小・中学生向けの環境教室なども開催しているが、賑わいの
	効果が限定的となっている。
鳥取環境大学西	継続して取り組んでいく。
部サテライトキ	
ャンパス連携活	
用事業の今後に	
ついて	

⑤. にぎわいのある商店街づくり事業 (米子市)

支援措置名及び	_
支援期間	_
事業開始・完了時	平成17年度~【実施中】
期	
事業概要	空き店舗へ出店する事業者に店舗改修費等の助成を行い、商店街の魅力や集客
	力を高め、空き店舗の解消を図る事業
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量:1,484人
	(最新値)歩行者通行量:1,999人
達成状況	達成
達成した(出来な	商店街に核となる施設が次々完成し、商業活性化の動きがでてきたことにより、空
かった)理由	き店舗への新規出店者が出てきたため
計画終了後の状	商店街への集客と空き店舗の解消につながった。
況 (事業効果)	
にぎわいのある	引き続き、商店街へ出店する事業者への支援をしていく。
商店街づくり事	
業の今後につい	
て	

⑥. 図書館·美術館整備事業(米子市)

支援措置名及び	社会資本整備総合交付補助金(都市再生整備計画事業)
支援期間	平成 23 年度~平成 25 年度
事業開始·完了時	平成 23 年度

	_
期	平成 25 年度【済】
事業概要	老朽化・狭隘化した図書館・美術館の整備拡充
	図書館増築(RC2 階 657 ㎡)、多目的交流スペースの整備(延床面積 299 ㎡)
	美術館増築・改修、図書館・美術館のバリアフリー整備、旧二中校舎を撤去した
	後、創作広場として整備
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量:124人
	(最新値)歩行者通行量:124人
達成状況	達成
達成した(出来な	平成25年8月に2施設がリニューアルオープンし、利用者は増加傾向にあり、目標
かった)理由	どおりであった。
計画終了後の状	平成25年8月完成後、図書館来館者数が前年度比で約10%増加している。
況 (事業効果)	
図書館・美術館整	実施済み
備事業の今後に	
ついて	

⑦. 地域情報発信拠点施設運営事業(喜八プロジェクト)

ישאיטע בון טלאד הון אליטי	
支援措置名及び	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業補助金
支援期間	平成 21 年度
事業開始・完了時	平成 21 年度【済】
期	
事業概要	旧銀行の空き店舗を活用してコミュニティ FM、レストラン、物販スペース、ミュージ
	アムスペース等で構成する複合商業施設の整備
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量:432人
	(最新値)歩行者通行量:1,156人
達成状況	達成
達成した(出来な	周辺商店街とのイベントの連携により、人の回遊が図れたため
かった)理由	
計画終了後の状	コミュニティFM 局が開局され、地域住民に密着した情報の提供により、来街のきっ
況 (事業効果)	かけづくりとなっている。また、イベントスペースが活用されるようになり、映画の放
	映やジャズコンサートが開催され、今まで足を運ばなかった多種多様な層の来街
	がにぎわいを創り出している。
地域情報発信拠	実施済み
点施設運営事業	
の今後について	

⑧. 元町通り商業環境整備事業(元町通り商店街振興組合)

支援措置名及び	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業補助金
支援期間	平成 23 年度~平成 24 年度
事業開始・完了時	平成 23 年度
期	平成 24 年度【済】
事業概要	アーケードを撤去し、下水道、コミュニティ道路、パティオ広場の充実整備
目標値・最新値	【参考】(整備前) 歩行者通行量: 820 人(H19 年 11 月)
	(整備後)歩行者通行量:741人(H25年11月)
達成状況	_
達成した(出来な	_
かった)理由	

計画終了後の状	隣接する法勝寺町商店街と連携し、イベント等の集客面等で活性化に寄与する活
況 (事業効果)	動に結びついている。また、下水道が整備され、飲食店などの業種も出店しやす
	い環境が整った。
元町通り商業環	実施済み
境整備事業の今	
後について	

⑨. 元町通り空き店舗活用事業(㈱元町)

支援措置名及び	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業補助金	
支援期間	平成 23 年度	
事業開始·完了時	平成 23 年度【済】	
期		
事業概要	空き店舗を活用し、多目的に利用できる交流スペースと生活支援機能を持つ飲食	
	施設を備えた整備	
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量:-	
	(最新値)歩行者通行量:42人	
達成状況	_	
達成した(出来な	_	
かった)理由		
計画終了後の状	通りに不足していた飲食業の出店と地域の交流スペースを兼ねた施設整備によ	
況 (事業効果)	り、集客面や地域コミュニティの醸成など、中心市街地の活性化に寄与している。	
元町通り空き店	実施済み	
舗活用事業の今		
後について		

⑩. アルファビル再活用事業(㈱アルファオフィス)

支援措置名及び	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業
支援期間	平成 24 年度
事業開始・完了時	平成 24 年度【済】
期	
事業概要	空きビルを活用し、マンガやアニメ、映像、音楽などのポップカルチャーの店舗が
	集まる複合商業施設として整備
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量:-
	(最新値)歩行者通行量:128人
達成状況	_
達成した(出来な	_
かった)理由	
計画終了後の状	ポップカルチャーの新たな拠点施設が完成し、隣接する中海テレビ放送センター
況 (事業効果)	ビルとの連携により、新たな交流人口の獲得と新たな賑わいが創出されている。
アルファビル再	実施済み
活用事業の今後	
について	

①. 公会堂改修事業(米子市)

支援措置名及び	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)
支援期間	平成 24 年度~平成 25 年度
事業開始・完了時	平成 24 年度

期	平成 25 年度【済】
事業概要	中心市街地のランドマークとして市民に親しまれてきた公会堂を、今後も永く市民
	活動や賑わいを生み出す拠点として整備
	・公会堂ホール棟及び楽屋棟の耐震改修
	全館の劣化改修、内外装改修、設備改修及び前庭の整備
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量:-
	(最新値)歩行者通行量:-
達成状況	_
達成した(出来な	_
かった)理由	
計画終了後の状	平成 26 年 3 月にリニューアルが完了し、ホール以外にもホワイエが単独で利用可
況 (事業効果)	能となったとともに、これまで閉鎖的であった前庭についても開放的な広場として再
	整備が行われ、今後はホールの利用に留まらず、幅広く様々なイベントでの利活
	用が期待できるため、利用促進を図っていくこととしている。
公会堂改修事業	実施済み
の今後について	

⑫. 下町観光ガイド(市民ボランティア)

支援措置名及び	-
支援期間	
事業開始・完了時	平成 13 年度~【実施中】
期	
事業概要	地元ボランティアガイドによる下町の観光案内、モデルコースは4コースある。新た
	にガイドがおすすめする12コースが開拓された。
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量:38人
	(最新値)歩行者通行量:一人
達成状況	未達成
達成した(出来な	平成19年当時と比較すると、利用件数は増加したが1回あたりの利用者数は減少
かった)理由	したため、見込みどおりの増加とならなかった。
計画終了後の状	利用者数の延べ人数は基準時を下回っているが、利用件数は基準時より増加して
況 (事業効果)	おり、利用者の多様なニーズに対応し、個々の特徴を生かしたガイドが楽しめてい
	る。(利用件数 H19:105 件→H25:113 件)
下町観光ガイド	今後も継続して、下町の歴史や文化を多くの人に伝えていくこととしている。
事業の今後につ	
いて	

3. 今後について

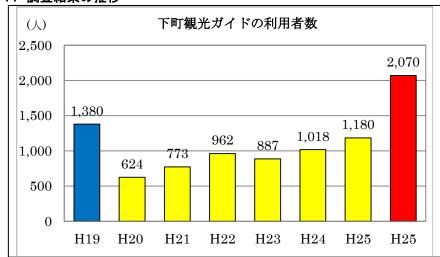
にぎわいトライアングルゾーン内での活発な動きによって、核となる拠点が整備された。また、事業の推進を契機として基本計画に記載されていないにぎわい創出のイベント等が継続的に実施されるようになってきた。今後は、1期で整備した拠点を活かしたソフト事業等の実施により商店街の魅力を高めていくとともに、にぎわいゾーン内の文化施設等との連携を図っていく。また、空き店舗の活用とともに、空きビルの解消にも取り組むことで、事業所の進出等による雇用の確保を図っていく。

以上の取り組みにより、引き続き賑わい創出を図っていく。

目標「歴史や文化、自然に触れ合えるまちをつくる」

「下町観光ガイドの利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P65~P66 参照

1. 調査結果の推移



(人)
1,380
(基準年値)
624
773
962
887
1,018
1,180
2,070 (目標)

※調査方法;毎年1月に米子市観光協会がとりまとめている利用者数を集計し、把握

※調査月 : 毎年1月から12月

※調査主体:米子市

※調査対象;下町観光ガイド利用者

【総括】

下町観光ガイド利用者数については、平成 25 年は 1,180 人で、基準日の平成 19 年の 1,380 人と比べて、200 人減少し、増加には至らなかった。

要因としては、「史跡米子城跡整備事業」が未実施であることも目標達成に至らなかった理由の1つではあるが、「旧加茂川・寺町周辺地区街なみ環境整備事業」による取り組みが大きく魅力の向上に寄与するには至っていないことなどが考えられる。

一方では、新しい試みとして、地元ブロガーを活用して、季節ごとにまちなかの魅力の情報発信を行うとともに、市ホームページに中心市街地の情報発信コーナーを設け、まちなか特派員に任命したブロガーのブログにリンクさせ中心市街地の情報を発信することで、視点を変えた様々な情報が幅広く発信でき、下町観光や来街の動機付けにもなっており、下町の魅力の発掘に情報発信を上手に活用していくことが必要である。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①. 旧加茂川・寺町周辺地区街なみ環境整備事業(米子市)

支援措置名及び	社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)
支援期間	平成 15~25 年度
事業開始・完了時	平成 15 年度
期	平成 25 年度【済】
事業概要	歴史的景観の保全・継承、住環境の向上を図るため、建物修景支援、まちかど広
	場、道路美装化、遊歩道、案内施設などを整備
	まちかど広場整備 1,611 ㎡、道路美装化 423m
	遊歩道整備 464m、案内施設整備 4 基
目標値・最新値	(目標値)下町観光ガイドの利用者数目標値:484人
	(最新値)下町観光ガイドの利用者数最新値:-
達成状況	未達成
達成した(出来な	事業単体では現在の事業効果が測れないが、平成 19 年当時と比較すると、全体

かった)理由	の利用者数は減少したため、見込みどおりの増加とならなかった。
計画終了後の状	まちかど広場の整備により、多彩なイベントの開催が可能となり、今後は、下町のに
況 (事業効果)	ぎわい拠点、住民と観光客との交流拠点としての活用が期待され、歴史あるまちな
	みを活かした取り組みにつなげていく。
旧加茂川·寺町周	実施済み
辺地区街なみ環	
境整備事業の今	
後について	

②. 史跡米子城跡整備事業(米子市)

支援措置名及び	史跡等保存整備事業、史跡等購入事業
支援期間	平成 22~28 年度
事業開始·完了時	平成 20 年度
期	平成 34 年度【未】
事業概要	国史跡「米子城跡」周辺の民有地を公有地にするともに、米子城跡の史跡公園とし
	て整備する。
	登山道、案内板の整備
	内塀遺構等史跡の保存、復元整備
目標値・最新値	下町観光ガイドの利用者数目標値:61人
	下町観光ガイドの利用者数最新値: -
達成状況	未実施
達成した(出来な	未実施
かった)理由	
計画終了後の状	未実施
況 (事業効果)	
史跡米子城跡整	伯耆の国よなご文化創造計画(後期計画)に基づき、引き続き、整備に向けて取り
備事業の今後に	組んでいくこととしている。
ついて	

③. 下町観光ガイド(市民ボランティア)

支援措置名及び	_
支援期間	
事業開始・完了時	平成13年度~【実施中】
期	
事業概要	地元ボランティアガイドによる下町の観光案内、モデルコースは 4 コース。その他、
	ガイドのオリジナルコースの提案。
目標値・最新値	(目標値)下町観光ガイドの利用者数目標値:121人
	(最新値)下町観光ガイドの利用者数最新値:4人
達成状況	未達成
達成した(出来な	新コースの設定を行ったが、有料ということもあり、利用者の増加にはつながらなか
かった)理由	ったため
計画終了後の状	ガイドの個々の得意分野を活かした新たなコースが創設され、下町の魅力の発信
況 (事業効果)	に寄与している。
下町観光ガイド	ボランティアガイドの PR を積極的に行い、リピーターにつなげていく。また、
事業の今後につ	利用者のニーズに対応できるよう、ガイドを育成し、引き続き事業に取り組んで行
いて	<. □

④. 加茂川・中海遊覧の運航(笑い通り商店街振興組合) 支援措置名及び一一 支援期間 事業開始 · 完了時 平成 13 年度~【実施中】 期 事業概要 旧加茂川から中海、新加茂川を巡る小型遊覧船の運航 1 日 2 便、往復約 40 分、定員 10 名 目標値・最新値 (目標値)下町観光ガイドの利用者数目標値:50人 (最新値)下町観光ガイドの利用者数最新値:15人 達成状況 未達成 下町観光と遊覧船をセットとしたことによりガイドの利用件数に寄与しているが、1件 達成した(出来な かった)理由 あたりの利用者数が想定より少数であったため、目標値に届かなかった。

平成 21 年をピークに減少傾向が続いているが、遊覧船は重要な観光資源の一つ

今後も引き続き継続して取り組んでいくが、リピーターの確保や単体で集客を図る

には限界に来ており、他の目的での来街者を取り込んでいくことも今後の課題であ

⑤. 中心市街地活性化情報発信事業(米子市)

となっている。

計画終了後の状

加茂川・中海遊覧

の運航事業の今

況(事業効果)

後について

支援措置名及び	_
支援期間	
事業開始・完了時	平成 24 年度~【実施中】
期	
事業概要	地元ブロガーを活用して、季節ごとにまちなかの魅力の情報発信を行うとともに、
	市ホームページに中心市街地活性化情報発信コーナーを設け、まちなかの賑わ
	いの様子やイベント情報などを発信していく事業
目標値・最新値	(目標値)下町観光ガイドの利用者数:-
	(最新値)下町観光ガイドの利用者数:中心市街地を巡るツアーを開催し、米子城
	周辺の魅力をブログで発信した。また、まちなか特派員として、中心市街地の情報
	をブログにアップしてもらい、幅広い地域内外へ発信することができた。
達成状況	-
達成した(出来な	事業単体では現在の事業効果が測れない。
かった)理由	
計画終了後の状	ブロガーの個性が出ているブログが、見る人に来街のきっかけや興味をもたせ、中
況 (事業効果)	心市街地へのイベント等への集客効果に繋がっている。
中心市街地活性	平成 26 年度も引き続き、地元ブロガーによる情報発信を行い、新たな中心市街地
化情報発信事業	の魅力を多くの人に発信していく。
の今後について	

3.今後について

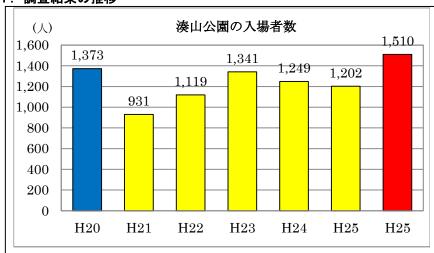
中心市街地には、多くの歴史的・文化的資源や自然資源があり、1 期計画では、下町観光ガイドの新規ルートの追加や街なみ環境整備による下町の景観保全、彫刻ロードの環境整備、ブロガーなどを活用した情報発信等に取り組んだ。

今後も引き続き、情報発信を積極的に行い、市民や観光客の誘引、リピーターの確保を図っていく。

目標「歴史や文化、自然に触れ合えるまちをつくる」

「湊山公園の入場者数」※目標設定の考え方基本計画 P65~P66 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H20	1,373
	(基準年値)
H21	931
H22	1,119
H23	1,341
H24	1,249
H25	1,202
Hor	1,510
H25	(目標)

※調査方法; 6 月の平日・休日の 2 日間実施。調査地点 7 地点において、調査時間を 6 時から 19 時 30 分までとし、毎時 30 分間計測。指標となるのは、休日の入場者数を集計して、把握

※調査月:6月 ※調査主体:米子市

※調査対象:自動車に乗車する人を含めた全ての入場者数

【総括】

湊山公園の入場者数については、平成 25 年度は、1,202 人で、基準日の平成 20 年度の 1,373 人と比べて 171 人減少し、増加するには至らなかった。

大きな要因としては、「史跡米子城跡整備事業」が未実施であったことも1つにはあるが、フォローアップの過程で米子周辺の探訪や講演会等を開催し、普段から訪れる機会を増やす取り組みを行うなどしてきたが、増加には至らなかった。

しかしながら、前段の「下町観光ガイドの利用者数」で述べたとおり、ブロガーを活用した情報発信により、 来街や公園への入場の動機付けになっている。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①史跡米子城跡整備事業(米子市)

支援措置名及び	史跡等保存整備事業史跡等購入事業
支援期間	平成 22~28 年度
事業開始 • 完了時	【未実施】
期	
事業概要	国史跡「米子城跡」周辺の民有地を公有地にするとともに、米子城跡の史跡公園と
	して整備する。
	登山道、案内板の整備
	内塀遺構等史跡の保存、復元整備
目標値・最新値	(目標値):71 人
	(最新値):一人
達成状況	未達成
達成した(出来な	事業の進展がなかったため
かった)理由	
計画終了後の状	事業未実施のため、事業の効果はない。

況 (事業効果)	
史跡米子城跡整	伯耆の国よなご文化創造計画(後期計画)に基づき、引き続き、整備に向けて取り
備事業の今後に	組んでいくこととしている。
ついて	

②. 中心市街地活性化情報発信事業(米子市)

支援措置名及び	-
支援期間	
事業開始・完了時	平成 24 年度~【継続中】
期	
事業概要	ブロガーを対象とした中心市街地を巡るモニターツアーを開催し、まちなかの魅力
	をブログで発信する。また、地域のブロガーをまちなか特派員として任命し、まちな
	かの情報をブログで、地域内外へ発信する。
目標値・最新値	(目標値):
	(最新値): -
達成状況	_
達成した(出来な	事業単体では現在の事業効果が測れない。
かった)理由	
計画終了後の状	ブロガー同士の連携により、まちなかへの来街につながっている。
況 (事業効果)	ブロガーの個性が出ているブログが、見る人に来街のきっかけや興味をもたせ、中
	心市街地のイベント等に集客を見出している。
中心市街地活性	今後も引き続き取り組んでいくこととしている。
化情報発信事業	
の今後について	

3. 今後について

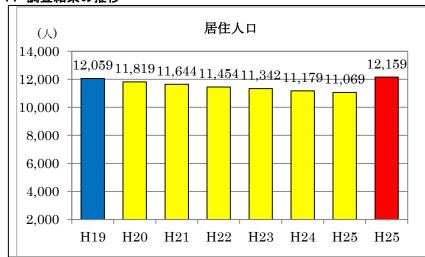
1 期計画では、「歴史や文化、自然に触れ合えるまちをつくる」の目標に対して、観光客については「下町観光ガイドの利用者数」、市民については「湊山公園の入場者数」で計ることとしていた。今回、目標達成のための主要な事業に掲げている「史跡米子城跡整備事業」が未着手のため目標達成に至っていない。

今後は、1 期計画で整備した公会堂、図書館・美術館の利用促進をはじめ、整備が遅れている山陰歴 史館及び米子城跡整備に着手し、取り組みを図っていく。

目標「住みたくなるまちをつくる」

「居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P71 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H19	12,059
	(基準年値)
H20	11,819
H21	11,644
H22	11,454
H23	11,342
H24	11,179
H25	11,069
Hor	12,159
H25	(目標)

※調査方法;毎年4月1日現在における中心市街地区域の人口を住民基本台帳から集計し、把握。

※調査月 ; 4 月 ※調査主体: 米子市

※調査対象;中心市街地区域内

【総括】

居住人口については、平成 25 年は 11,069 人で、基準日の平成 19 年の 12,059 人と比べて、990 人減少し、 増加には至らなかった。

要因としては、死亡数が出生数を上回る自然減にあり、人口動態全体に与える大きなマイナス要因となっている。

しかし、人口の社会増減については、平成22年度に100人程度の転出超過から、近年(平成23年度~平成25年度)は転入・転出がほぼ同数で推移するとともに、平成25年4月においては、転入が転出を上回った。また、基本計画策定前(平成16年度~平成21年度)においては、年平均180人弱の減少幅で推移していたが、策定後(平成22年度~平成25年度)においては、年平均130人弱程度の減少幅で推移している。このことは、民間マンション建設、介護サービス付共同住宅、高齢者専用賃貸住宅の建設、生活支援サービスの実施など、まちなかで暮らす高齢者等が住みやすい環境づくりを進めてきたことの効果であると考えている。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①. 民間マンション建設(㈱穴吹工務店)

支援措置名及び	_
支援期間	
事業開始・完了時	平成 20 年度【済】
期	
事業概要	民間事業者による高層集合住宅建設(1棟 64戸)
目標値・最新値	(目標値)居住人口:123人
	(最新値)居住人口:135人
達成状況	達成
達成した(出来な	立地場所の優位性から想定どおりの入居者が見込めた。
かった)理由	
計画終了後の状	まちなか居住の促進に寄与している。

況 (事業効果)		
民間マンション	実施済み	
建設事業の今後		
について		

②. 介護サービス付共同住宅事業 (㈱あるまち、㈱ミシマ)

支援措置名及び	-
支援期間	
事業開始・完了時	平成 21~25 年度【済】
期	
事業概要	民間事業者介護サービス付の共同住宅の開発と運営
目標値・最新値	(目標値)居住人口:-
	(最新値)居住人口:5人
達成状況	
達成した(出来な	
かった)理由	
計画終了後の状	住み慣れた地域に安心して住み続けられるまちづくりを実現させる事業として寄与
況 (事業効果)	している。
介護サービス付	実施済み
共同住宅事業の	
今後について	

③ まちなかすまいるデータバンク事業(米子市、NPO法人まちなかこもんず)

支援措置名及び	市町村ふるさと雇用再生特別基金事業補助金(鳥取県)
支援期間	平成 22 年度~平成 23 年度
事業開始・完了時	平成 22 年度
期	平成 23 度【済】
事業概要	まちなか居住に適した中古住宅物件情報の収集、管理・発信
目標値・最新値	(目標値)居住人口:712人
	(最新値)居住人口:21人
達成状況	未達成
達成した(出来な	居住可能な空き家の掘り起こしが、進まなかったため
かった)理由	
計画終了後の状	事業推進の過程において、民間での空き家を活用したプロジェクトが動き出してき
況 (事業効果)	た。
まちなかすまい	ウェブサイトの中心市街地の総合情報発信の中の一つのコンテンツとして、引き続
るデータバンク	き空き家情報として実施。
事業の今後につ	
いて	

④. まちなか居住支援事業(米子市)

支援措置名及び	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)
支援期間	平成 22 年度~平成 25 年度
事業開始·完了時	平成 22 年度
期	平成 25 年度【済】
事業概要	中心市街地に住宅を取得して市外から移住する世帯に対して、住宅の取得等に
	係る経費の一部を支援

目標値・最新値	(目標値)居住人口:-
	(最新値)居住人口:28人
達成状況	_
達成した(出来な	_
かった)理由	
計画終了後の状	12件が支援を受けており、まちなか居住につなり、一定の効果があった。
況 (事業効果)	
まちなか居住支	実施済み
援事業の今後に	
ついて	

⑤. やらいや米子・平成ルネッサンス事業 (こうやまち壱号館) (㈱まちなか米子壱号館)

支援措置名及び	街なか居住再生ファンド
支援期間	平成 22 年度
事業開始・完了時	平成 21~22 年度【済】
期	
事業概要	低未利用地を活用した民間事業者による高齢者専用賃貸住宅を核とした複合施
	設建設
	RC 造 6 階建て、延床面積 3,232 ㎡、高齢者専用賃貸住宅 74 戸、小規模多機能
	型居宅介護支援センター等を併設
目標値・最新値	(目標値)居住人口:-
	(最新値)居住人口:33人
達成状況	_
達成した(出来な	_
かった)理由	
計画終了後の状	住民票の異動を伴わない入居者が多いが、入居率は 9 割を超えており、実体とし
況 (事業効果)	てはまちなか居住が進展し、高齢者が安心して暮らせるまちづくりに寄与している。
やらいや米子・平	実施済み
成ルネッサンス	
事業の今後につ	
いて	

⑥. いきいきケアホーム灘町事業(예ラポール・ケア米子)

支援措置名及び	サービス付き高齢者向け住宅整備事業
支援期間	平成 23 年度
事業開始・完了時	平成 23 年度【済】
期	
事業概要	民間事業者によるサービス付き高齢者向け住宅を核とした複合施設の建設
	鉄骨造3階建て、延床面積2,486 ㎡、サービス付き高齢者向け住宅65戸、訪問介
	護、看護ステーション等を併設
目標値・最新値	(目標値):-
	(最新値):5人
達成状況	-
達成した(出来な	_
かった)理由	
計画終了後の状	住民票の異動を伴わない入居者が多いが、入居率は7割を超えており、実体として
況 (事業効果)	はまちなか居住が進展し、高齢者が安心して暮らせるまちづくりに寄与している。

いきいきケアホ	実施済み	
ーム灘町事業の		
今後について		

⑦. やらいや米子・平成ルネッサンス事業 (サービス付き高齢者向け住宅まちなか)

支援措置名及び	街なか居住再生ファンド
支援期間	平成 24~25 年度
事業開始·完了時	平成 24 年度
期	平成 25 年度【済】
事業概要	民間事業者によるサービス付き高齢者向け住宅を核とした複合施設の建設
	RC 造 5 階建て、延床面積 2313.46 ㎡、高齢者専用賃貸住宅 57 戸
	通所介護事業所を併設
目標値・最新値	(目標値)居住人口:-
	(最新値)居住人口:0人
達成状況	
達成した(出来な	施設の整備が完成したばかりで、未だ効果に反映されていない。
かった)理由	
計画終了後の状	平成 25 年 12 月に完成し、入居者が少しずつ増えてきており、安心して暮らせるま
況 (事業効果)	ちづくりに寄与している。
やらいや米子・平	実施済み
成ルネッサンス	
事業の今後につ	
いて	

3. 今後について

民間マンションの建設や高齢者向けの賃貸住宅等の建設、生活支援サービス実施など、住み易い環境づくりをすすめてきたことにより、目標には届かなかったものの、人口の減少幅はある程度改善された。また、人口減少の大きな要因は自然減によるところが大きいが、近年は転入・転出がほぼ同数で推移しており、平成25年度は社会増に転じるなど、一定の効果が得られた。

居住人口を増やすことは、まちを育てていく上で重要な意義をもっている。このため、引き続き住宅建設の促進と既存ストックの活用を同時進行しながら、医療、福祉、雇用対策などを総合的・一体的に取り組み、中心市街地の利便性を発信していく。